

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

OCTOBER
2026

10

昭和医科大学新聞 通巻 第633号
(偶数月発行)

富士吉田キャンパス2号館での新たな学び

学生生活 翠昭祭を開催



昭和医科大学
SHOWA Medical University

「学ぶ」「暮らす」「つながる」—— そのすべてが、未来のチーム医療を育む。 富士吉田キャンパス2号館での新たな学び

2026年
1月竣工!



2026年1月、富士吉田キャンパスに新実習棟となる「2号館」が完成しました。
本施設は、2026年度からスタートした新カリキュラムに対応し、
専門基礎教育を早期から幅広く学ぶことができる環境として整備され、2026年4月より運用を開始しています。
地上3階建ての館内には、3Dバーチャル解剖台「アナトマージテーブル」を国内最大級となる20台設置した
形態機能実習室をはじめ、ベッドサイドでの実践的な学修に対応した基礎看護実習室などを設置。
最新の設備を活用しながら、より高度で実践的な学びを実現できる教育環境が整いました。
本特集では、新実習棟での学びを体験した学生たちの声を交えながら、
富士吉田キャンパスの新たな魅力をご紹介します!



FEATURE 01

20台導入! バーチャル解剖台「アナトマージテーブル」

国内最大規模



「アナトマージテーブル」は、最先端の3D技術を用いて、人体の構造と機能を精緻に再現するバーチャル解剖システムです。
タッチパネル式の巨大な画面上で自由に指先で操作し、拡大して観察できるため、解剖学への理解を深め、実習や臨床につながる学びを支えます。

苦手を克服!

最初は解剖学が苦手だったけど、今では非常に興味がある科目になりました!

ここがGOOD!



グループで 楽しみながら学べます

アナトマージテーブルを使って、ほかの学科の学生と話しながー一緒に学べるのがすごく楽しいです!

ここがGOOD!



FEATURE 02

2号館のもう一つの主役 基礎看護実習室



清潔で明るく、広い室内空間

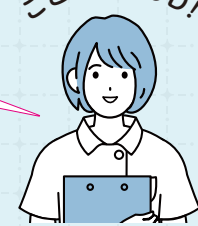
病院の病棟に近い環境で、実践的な看護技術をしっかり学べる実習室です。

きれいで 設備が充実!

定点カメラで撮影した映像が24台すべてのモニターで確認できるのが素晴らしい!

24台のモニターで
定点カメラ映像を共有

ここがGOOD!



学長が突撃取材した 動画公開中!

公式SNSでは学生の学びや
キャンパスの最新情報を配信中!
ぜひチェックしてください!



Instagram



X (旧Twitter)



YouTube

10

OCTOBER
2026

目次

2 Special Feature
「学ぶ」「暮らす」「つながる」
—— そのすべてが、未来のチーム医療を育む。
富士吉田キャンパス2号館での
新たな学び

4 Press Release
血液1滴で大腸がんを見分ける新技術
階層性ナノ多孔層ガラスと近赤外ラマン分光法を応用
漢方薬が消化管の微小血流量を増やす仕組みを解明
術後回復促進効果の科学的根拠に
抗精神病薬が腸内細菌の酵素を抑制
薬効や副作用の発現に関わる可能性
細胞分裂タンパク質に脂質制御の新機能を発見
脂肪肝や代謝異常の理解につながる研究成果

6 News & Topics
オープンキャンパス・入試説明会
附属病院看護業績表彰式
夏季スポーツ大会壮行会
夏のリカレントカレッジ特別企画
電子顕微鏡サマースクールほか

16 Student Life
翠昭祭を開催

19 Database
科学研究費助成事業採択課題一覧
入学試験要項

24 Meeting Report (学内会議報告)

26 Information



血液 1 滴で大腸がんを見分ける新技術 階層性ナノ多孔層ガラスと近赤外ラマン分光法を応用



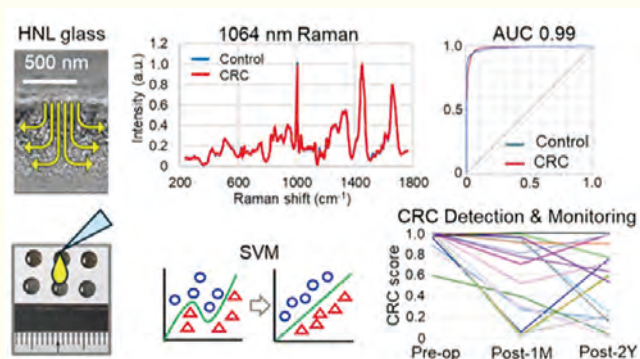
昭和医科大学、東京都市大学、埼玉県立がんセンターの共同研究グループは、わずか 1 滴の血液から大腸がんの有無を高精度に判別する新たなスクリーニング技術を開発した。

研究成果は、米国化学会発行の学術誌「ACS Applied Optical Materials」に掲載された。

研究では、表面に微細なスポンジ状の構造を持つ「階層性ナノ多孔層（HNL）ガラス」とレーザー光を照射して血液中の成分を分析する「近赤外ラマン分光法」を組み合わせ、血清中のがんに関連する成分を効率的に濃縮・分析する技術を確立し、約 1 滴の血清をガラス上に滴下し、20 秒間レーザーを照射することで、高品質な分析データの記録に成功した。

この方法で、大腸がん患者 20 人とがんがないことが確認された 20 人の血液から機械学習を用いて解析し、大腸がんの判別成績を比較した結果、患者単位での判別において感度・特異度ともに 100% を達成した。また、手術後には大腸がんの予測スコアが低下する傾向が確認され、診断だけでなく治療効果の評価や再発のモニタリングにも応用できる可能性が示された。

大腸がんは国内で新規患者数が 15 万 4000 人あまり（2023 年）と最も多いがんで、早期発見のための低侵襲かつ高精度な検査法の確立が課題となるなか、グループでは本研究の 10 倍にあ



たる約 400 人規模の血液解析を進めるなど、早期の実用化を目指している。

リリース時タイトル／昭和医科大学らの研究グループが、血液 1 滴による大腸がんスクリーニング技術を開発 ―階層性ナノ多孔層ガラスと近赤外ラマン分光法を応用―

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 先端がん治療研究所 准教授 伊藤 寛晃 TEL：03-3784-8145 E-mail：h.ito@med.showa-u.ac.jp

漢方薬が消化管の微小血流を増やす仕組みを解明 術後回復促進効果の科学的根拠に

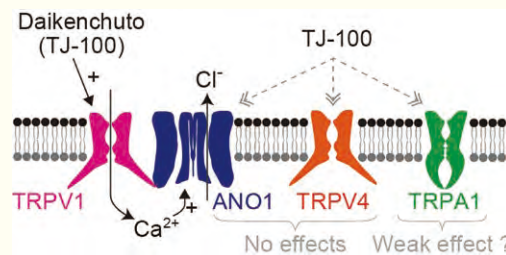


昭和医科大学大学院医学研究科の高山靖規講師は、大学院生の片山諒さん、砂川正隆教授、東京大学先端科学技術研究センターの加藤真未研究員らとの共同研究により、漢方薬「大建中湯」が消化管の微小血流を増加させる分子レベルの仕組みを解明した。本研究成果は日本疼痛学会誌「PAIN RESEARCH」に掲載された。

「大建中湯」は、消化管手術後の回復を促す目的で広く用いられているが、その作用は十分に明らかになっていなかった。本研究において、イオンチャネルの働きを解析した結果、「大建中湯」が辛味成分を感知する受容体である「TRPV1」を活性化させると、「ANO1」というイオンチャネルも連動して強く活性化され、これが消化管の微小血流を増加させる分子メカニズムの 1 つであると解明された。

また、大建中湯に含まれる生姜由来成分が TRPV1 を主に活性化することが明らかとなった。

本研究成果は、大建中湯を術後に使用する科学的根拠を示し



ており、これは漢方薬のエビデンス蓄積につながる成果としても注目される。今後は、臨床研究なども通して、消化管手術後をはじめとするさまざまな病態や疾患への応用も期待される。

リリース時タイトル／漢方薬・大建中湯が消化管の微小血流を増加させる仕組みを解明 ―術後回復促進の科学的根拠に―

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 大学院医学研究科 生体制御学分野 講師 高山 靖規 TEL：03-3784-8110 E-mail：ytakayama@med.showa-u.ac.jp

抗精神病薬が腸内細菌の酵素を抑制 薬効や副作用の発現に関わる可能性

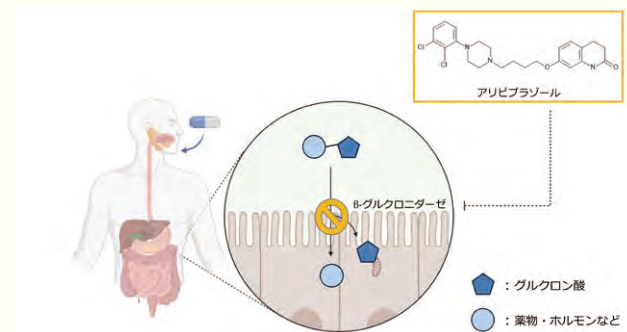


昭和医科大学大学院医学研究科の杉山幸翼さんと薬学研究科生体分子機能修飾学分野の秋山雅博教授らの研究グループは、統合失調症などの治療に用いられる抗精神病薬「アリピプラゾール」が、腸内細菌である大腸菌の酵素「β-グルクロニダーゼ」の活性を抑制することを明らかにした。研究成果は国際学術誌「Pharmacological Reports」に掲載された。

「β-グルクロニダーゼ」は、ヒトの体内における薬物や神経伝達物質の循環に関わる腸内細菌酵素である。研究グループは、一般的に処方される 10 種類の精神神経系作用薬について同酵素への影響を調査した。その結果、「アリピプラゾール」と抗うつ薬の「デュロキセチン塩酸塩」が「β-グルクロニダーゼ」の活性を阻害することを明らかにした。

特に「アリピプラゾール」は大腸菌内に高濃度で蓄積し、「β-グルクロニダーゼ」活性を有意に抑制することが確認された。また、コンピューターによるシミュレーション解析から、同薬が酵素の活性部位付近に安定して結合する可能性も示された。

今回の成果は、精神疾患治療薬が脳内受容体への作用だけでなく、腸内細菌の働きを介して薬効や副作用の発現に関与する可



能性を示すものである。研究グループは今後、医薬品と腸内細菌酵素との相互作用の解明を進め、新たな創薬戦略への応用を目指すとしている。

リリース時タイトル／抗精神病薬が腸内細菌酵素の活性を制御 ―アリピプラゾールの新たな作用機序の可能性を示唆―

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学大学院薬学研究科 生体分子機能修飾学分野 教授 秋山 雅博 TEL：03-3784-8209 E-mail：akiyama.sw@med.showa-u.ac.jp

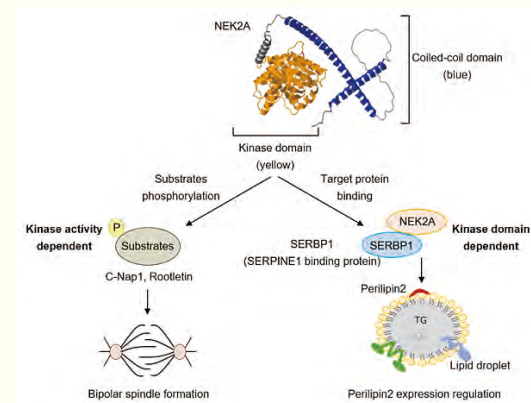
細胞分裂タンパク質に脂質制御の新機能を発見 脂肪肝や代謝異常の理解につながる研究成果



昭和医科大学薬学部の牧山智彦講師らの研究グループは、細胞分裂に関与するとされてきたタンパク質「NEK2A」に、細胞内の脂質（脂肪）の蓄積を調節する新たな仕組みを発見し、研究成果は国際学術誌「iScience」に掲載された。

細胞内では脂質が「脂肪滴」と呼ばれる小さな袋状の構造に蓄えられ、その量はエネルギー代謝や細胞機能の維持に影響を与えることが分かっている。研究グループはヒト肝細胞を用いた解析で、「NEK2A」の発現量を減らすと脂肪の蓄積に関わるタンパク質「PLIN2」が増加し、逆に「NEK2A」を増やすと「PLIN2」の発現が減少することを発見した。さらに、この制御には遺伝子発現を制御するタンパク質「SERBP1」が関与していることも突き止めた。

「NEK2A」はこれまで主に細胞分裂を制御するタンパク質として研究されてきたが、本研究により脂質代謝の制御にも関与することが初めて示された。脂質代謝の異常は脂肪肝などの代謝性疾患や、がん細胞の増殖・生存とも深く関わることが知られている。今回の発見は、脂肪肝をはじめとする代謝性疾患や、がんにおける脂質代謝異常の理解を深めるとともに、新たな治療戦略の開



発につながる基礎的知見として期待されている。

リリース時タイトル／細胞分裂タンパク質 NEK2A に脂質蓄積を制御する新機能を発見 ―脂肪肝や代謝異常の理解につながる研究成果―

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 薬学部基礎薬学講座 生物化学部門 講師 牧山 智彦 TEL：03-3784-8218 E-mail：t-maki@pharm.showa-u.ac.jp

2026.6.21～8.6

各学部でオープンキャンパス・入試説明会を開催

6月から8月に各キャンパスでオープンキャンパスや入試説明会を開催し、多くの方々に本学への理解を深めていただいた。

医学部（7月19日） 医学部オープンキャンパスを上條記念館にて開催し、555組1,120名が参加した。

小風暁医学部長の挨拶に続き、医学部教育の特色やカリキュラム、入学試験の概要を説明した。救急医療研究部による医療体験コーナーや教育職員による個別相談、外部講師による入試対策講座も併せて実施した。

歯学部（7月18日） 歯学部入試説明会を上條記念館にて開催し、193組365名が参加した。

馬場一美歯学部長の挨拶に続き、歯学部の特色や2027年度入学試験、富士吉田キャンパスでの学生生活について説明したほか、在学生3名が合格までの道のりなどを語った。昭和医科大学歯科病院の見学も実施した。

薬学部（6月21日） 薬学部オープンキャンパスを上條記念館にて開催し、146組296名が参加した。

原俊太郎薬学部長の挨拶に続き、薬学部教育の特色や入学試験、富士吉田教育部での学生生活を紹介した。病院見学ツアーや模擬授業、適切な薬剤提供についての理解を深める臨床薬剤師体験なども実施した。

薬学部・病院見学型（7月21日・22日） 薬学部病院見学型オープンキャンパスを北部病院・江東豊洲病院にて開催し、延べ41組66名が参加した。

見学ツアーでは「調剤室」「病棟」「外来化学療法室」などを巡り、チーム医療の中で患者さんを支える臨床薬剤師の役割を紹介した。在学生や教育職員との交流会も実施した。

保健医療学部（6月21日） 保健医療学部オープンキャンパスを横浜キャンパスにて開催し、341組672名が参加した。

応援指導部のオープニングパフォーマンスと鈴木久義保健医療学部長の挨拶で幕を開けた後、本学や保健医療学部の特長、入学試験等について説明した。BLS（一次救命処置）体験や模擬授業、各学科・専攻の企画や体験コーナーなども実施した。

医学部 歯学部 薬学部 保健医療学部 オープンキャンパス



1 医学部オープンキャンパス 2 歯学部入試説明会 3 薬学部オープンキャンパス
4 薬学部病院見学型オープンキャンパス 5 保健医療学部オープンキャンパス
6 保健医療学部オープンキャンパス 7 保健医療学部リハビリテーション学科オープンキャンパス

保健医療学部（8月1日・2日） 保健医療学部オープンキャンパスを横浜キャンパスにて2日間開催し、あわせて653組1262名が参加した。

本学の特色や教育理念、2027年度入試の概要を紹介したほか、スキルスラボ室ではARを活用した最新デジタル教材での模擬授業を行った。学科・専攻ごとの体験企画やクラブ活動の紹介なども実施した。

保健医療学部 リハビリテーション学科（8月6日） 保健医療学部リハビリテーション学科のオープンキャンパスを藤が丘リハビリテーション病院にて開催し、38組68名が参加した。

全体説明後は各グループに分かれて病院見学を行い、臨床教員が理学療法士・作業療法士の役割や業務内容を説明した。学生と教育職員によるトークセッションも実施した。

2026.6.22

式典・行事 統括看護部

附属病院看護業績賞表彰式を挙行 現場の改善と研究成果を称える

6月22日、令和7年度附属病院看護業績賞表彰式を旗の台キャンパスで執り行った。今年度は業務業績4件、研究業績6件が表彰され、小口勝司理事長より賞状、小出良平総括病院担当理事から記念品が手渡された。



記念撮影

【業務業績】

所属名	団体名	受賞内容
昭和医科大学横浜市北部病院	看護部特定行為管理委員会	特定行為研修指定医療機関としての体制構築
昭和医科大学病院	看護部手術室	手術件数増加に向けた取り組み
昭和医科大学藤が丘病院	看護部透析センター	キャリアプランの支援強化および職場環境の改善
昭和医科大学病院附属東病院	看護部6階病棟	病床稼働率と回転数の向上への取り組み

【研究業績】

所属名	受賞者	受賞内容
昭和医科大学病院	係長・専門看護師・臨床教員 本間織重	大学病院におけるがん患者のアピアランスケアに対する医療者の認識調査
昭和医科大学病院	係長・専門看護師・臨床教員 井出由美	NICUの専門看護師によるアウトリーチ活動：実績報告 —新人看護師の教育体制の改善を目指して—
昭和医科大学横浜市北部病院	師長 飯野美朋	入院関連機能障害の予防に向けた看護介入に関する考察
昭和医科大学病院	師長 津藤沙織理	心不全患者における外来心リハ参加率向上に向けた多職種連携による患者教育の取り組み
昭和医科大学病院	係長・認定看護師 永田有理	褥瘡危険因子スクリーニングと高リスク患者に対する予防ケア強化による新規褥瘡発生（Ⅱ度以上）抑制の取り組み
昭和医科大学横浜市北部病院	認定看護師 福海夏津子	膀胱留置カテーテル挿入患者への看護実践力強化によるカテーテル関連尿路感染症の予防看護ケア強化

※本賞は、業務業績・研究業績が優秀と認められた看護職員に授与される。また、受賞者の所属・役職は選考当時のもの。

2026.7.6

学生生活 クラブ活動

夏季スポーツ大会壮行会を開催 熱中症対策の講演で備えも万全

7月6日、上條記念館にて「第29回夏季スポーツ大会壮行会」を開催した。

壮行会に先立つ講演会では、田中大介所長（保健管理センター）が「スポーツ活動における熱中症対策 ―予防から発症時の対応まで―」と題して講演を行った。暑さが本格化するなか、練習や大会に臨む学生に向けて、熱中症のリスクや予防方法、発症時の対応について解説した。

壮行会では、上條由美学長や西村栄一学生後援副会長をはじめとする教職員から、大会に臨む学生に向けて温かい激励のメッセージが送られた。また、バレーボール部代表の学生による力強い選手宣誓が行われ、大会への決意が表明された。

さらに、各クラブに対するエールとして、グリークラブによる校歌・応援歌の斉唱や、応援指導部によるパフォーマンスが行われ、



1 2 3 4 ユニフォーム姿で懇親会を楽しむ選手たち

会場は熱気と期待に包まれた。

学生たちは、目前に迫る大会に向けて決意を新たにするとともに、それぞれが全力を尽くすことを誓い合った。

電子顕微鏡室がサマースクール開催 子どもたちをミクロの世界へいざなう

7月18日、旗の台キャンパスにて電子顕微鏡室主催の「電子顕微鏡こどものサマースクール」を開催し、小学3年生～6年生の子どもたちが参加した。

子どもたちははじめに、工作キットを使って紙製顕微鏡の組み立てに挑戦した。保護者やスタッフのサポートを受けながら組み立てを進め、レンズによって物が拡大して見える原理を体験した。

続いて、光学顕微鏡を用いてアサガオやタマネギの表皮、池の水などの標本を観察した。接眼レンズをのぞき込みながら熱心に観察し、肉眼では見ることのできないミクロの世界に触れた。

その後は電子顕微鏡室へ移動し、走査型電子顕微鏡（SEM）や実体顕微鏡で観察した高倍率の画像を大型モニターで鑑賞した。スタッフの解説を聞き、身近な生物や物質が見せる意外な姿に触れた子どもたちからは、驚きの声が上がった。

プログラムを通して子どもたちは、「観察する」「考える」「発見する」という研究活動の基本を学び、ミクロの世界への興味と探求心を深めた。最後に高木孝士室長から一人ひとりに修了証が授与され、子どもたちは達成感に満ちた表情でサマースクールを締めくくった。



光学顕微鏡を用いた観察

第39回旗ヶ岡盆踊り大会を開催 世代を超えて楽しんだ夏のひととき

7月24日、旗の台キャンパス中庭にて「旗ヶ岡盆踊り大会」を開催した。当日は雨予報だったが幸いにも天候が大きく崩れることはなく、予定どおり開催することができた。

今回も多くの方々にご来場いただき、会場はかき氷や焼きそば、金魚すくいなどの屋台を楽しむ来場者で賑わった。さらに、やぐらを囲んで盆踊りの輪が広がったほか、迫力ある太鼓演舞も披露され、会場は大いに盛り上がった。

また、今年度も「ちびっこ盆踊り」を実施し、子どもたちがや

ぐらの上で元気いっぱいに踊りを披露した。子どもからご年配までの幅広い世代と一緒に「品川音頭」を踊り、笑顔あふれる時間となった。

提灯の灯りが会場を彩り、爽やかな風も吹き抜けるなか、来場者は思い思いに夏のひとときを過ごした。



鏡開きの様子

国内最高峰の整形外科学会で 本学初の最優秀口演賞に輝く

大池潤助教（医学部整形外科学講座／藤が丘病院整形外科）が、第99回日本整形外科学会学術総会（5月21日～24日：神戸コンベンションセンター）において「最優秀口演賞」を受賞した。日本整形外科学会学術総会は、全国の整形外科医や研究者が参加する日本最大かつ国内最高峰の学会である。本賞は、優秀口演賞に選出された演題の中から最も優れた研究発表に授与されるもので、本学として初めての受賞となる。大池助教は、演題名「マウス人工関節周囲感染症（PJI）モデルにおけるバイオフィルム標的モノクロ

【大池潤助教のコメント】

このたび、日本整形外科学会学術総会という国内最高峰の学会において、このような栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。

今回の研究は、米国Rush大学留学中に取り組んだ研究成果で



大池潤助教（中央）

ーナル抗体療法」の発表が評価され、同賞に選定された。今回の成果は、治療が困難な整形外科感染症に対する新たな治療法の開発につながる事が期待される。

あり、日頃よりサポートしていただいている藤が丘病院整形外科の先生方やRush大学の共同研究者の支えによって実現したものです。今後も国際共同研究を継続しながら、臨床に還元できる研究を発展させていきたいと考えています。

夏のリカレントカレッジ特別企画 水中写真家が語る海と人生

7月12日、昭和医科大学リカレントカレッジ特別企画（夏）「波のように生きる―海の写真が教えてくれる、あきらめない力―」を上條記念館で開催した。水中写真家の中村征夫さんを招き、長年海と向き合い続けてきた中村さんだからこそ見えてきた海の姿、そして海から学んだことについて講演していただいた。

会場では、東京湾や世界各地の海の生物たちの写真とともに、撮影時のさまざまなエピソードが紹介され、過酷な環境を生き抜く海の生物の力強さについて語られた。

当日は200名を超える方が参加し、参加者からは「自然への謙虚なお気持ちが感じられました。また、凄い人生を歩んで来られたのに淡々とお話をされていて、そういったところにも中村さんの



講演の様子（中村征夫さん）

魅力がいっぱいでした」「写真集では知り得ない、写真家として生きてきた感想や考えを聞くことができました」といった好評の声が寄せられた。

昭和医科大学リカレントカレッジでは今後も、社会人の「知の探究」の一助となる文化の発信拠点として、様々な講座の開講やイベントの開催に取り組んでいく。

教育の質の向上と教育力の強化を目指し 教育者のためのワークショップ

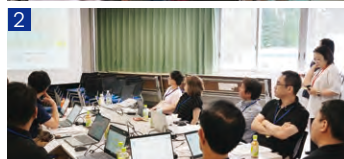
8月、4学部合同による「教育者のためのワークショップ」を富士吉田キャンパスで開催した。

ビギナーズコース（8月16日～18日） 39名の教育職員が参加した。学部横断の5グループに分かれ、「どのような教育者になりたいか」をテーマに手書きのイラストを用いて発表を行った。続いて「チーム医療」「医療を志す学生に求められる倫理」などをテーマに意見を交わし、授業設計について検討した。

アドバンスコース（8月27日・28日） 6つのグループに分かれ、「驚沼キャンパスでの発展的学部連携教育の運用の検討」「カリキュラ

ム2026による留年防止対策」などについて検討した。

両コースとも、各グループが検討した内容を発表し、他グループからの質問も寄せられるなど活発な議論となった。最後には小口勝司理事長が本学の中期計画や組織運営について講演を行い、大学が目指す教育の方向性への理解を深める機会となった。



1 ワークショップ（ビギナーズ） 2 ワークショップ（アドバンス）

富士吉田市の夏の終わりを告げる風物詩 吉田の火祭りに大松明を奉納

8月26日、450年以上の歴史を持つ日本三奇祭の一つ「吉田の火祭り（鎮火祭）」が山梨県富士吉田市で開催され、今年も昭和医科大学富士吉田校舎として大松明を奉納した。

この祭りは、火を焚くことで富士山の噴火を鎮める江戸時代からの伝統行事で、北口本宮富士浅間神社とその摂社である諏訪神社の祭として、毎年8月26・27日に開催されている。

本学は地域に根差した大学として、富士吉田校舎開設以来、吉田の火祭りへの参加・協力を続けている。今年も大学関係者が見守る中、上條由美学長が昭和医科大学富士吉田校舎の名が入

った大松明に火を灯し、地域の伝統文化の継承と発展への願いを込めて奉納した。

午後6時半過ぎより、北口本宮富士浅間神社から約2kmにわたり、街道沿いに立てられた120本の大松明に火が次々と灯された。高さ3mの大松明が赤々と燃え上がり、街は幻想的な雰囲気に包まれた。



大松明に点火

症例報告 2 報が国際誌で高評価 臨床現場の気づきを世界へ発信

高橋伸幸助教（薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門）と百賢二准教授（薬学部病院薬剤学講座臨床研究部門）らが執筆した、薬物投与後の有害事象に関する症例報告 2 報が、Wiley 社が発刊するオープンアクセス誌「Clinical Case Reports」の「Top Viewed Article 2025」に認定された。同誌は 2025 年に 1,614

【高橋伸幸助教のコメント】

このたび、私たちの症例報告が多くの方に読まれたことを光栄に感じております。この症例報告は薬物治療の方針に関して、医師と議論を重ねた思い出深いものです。臨床現場で得られた気づきを丁寧に形にし、発信することの重要性を改めて感じております。今年度からは日本赤十字社山梨赤十字病院に出向し、地域医療の経験を積んでいます。引き続き研鑽を重ね、患者さんや医療に貢献できるように努めてまいります。



高橋伸幸助教

論文名／Duloxetine-induced syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion in a patient with neuropathic pain.

著者／Takahashi N, Mori Y, Momo K, Murakami H, Tanaka H.

掲載誌／Clin Case Rep.

掲載日／2024 年 11 月 11 日

DOI／10.1002/ccr3.9526

報の論文を掲載し、年間 2,510,687 件の全文閲覧数を記録している。今回の認定は、アクセス数が上位 10% に入った論文に与えられるものであり、同講座で取り組む症例報告の発信が国際的にも関心を集めていることを示す成果といえる。

【百賢二准教授のコメント】

症例報告では、薬剤師のみならず、医師を含めた多職種によるチーム医療の実践を通じて、治療経過や有害事象に対する解釈を深めていくプロセスが重要です。今回、講座スタッフが関わった症例報告が国際誌において多くの読者に閲覧され、このような認定を受けたことは、臨床現場での気づきを学術的に発信する意義を示すものと考えております。今後も、講座スタッフによる学術発信を支援するとともに、より高い教育的視点を持つ臨床家の育成に取り組んでまいります。



百賢二准教授

論文名／A severe tremor caused by a beta2 agonist in a patient with asthma-chronic obstructive pulmonary disease overlap.

著者／Nakajima K, Momo K.

掲載誌／Clin Case Rep.

掲載日／2024 年 7 月 31 日

DOI／10.1002/ccr3.9137

生理学の国際誌で優秀査読者賞 迅速で建設的な査読を評価

本間元康准教授（医学部生理学講座生体調節機能学部門）が、国際学術誌「The Journal of Physiological Sciences」において「2025 Outstanding Reviewers Award」を受賞した。同誌は生理学分野の国際的な学術誌であり、本賞は投稿論文の査読を通じて学術誌の発展に顕著な貢献を果たした研究者に贈られるもの

【本間元康准教授のコメント】

このたび、「The Journal of Physiological Sciences」の「2025 Outstanding Reviewers Award」を受賞することができ、大変光栄に思います。論文査読は研究成果の質を担保し、学術の発展を支える重要な役割を担っています。

である。本間准教授は、専門的かつ建設的な査読、迅速な対応、そして学術研究の質の向上への貢献が高く評価され、2025 年の優秀査読者として選出された。



本間元康准教授

今回、このような学術研究を下支えする活動を評価していただいたことに深く感謝しております。今後も研究活動とともに、査読を通じて生理学および医学研究の発展に貢献してまいります。

骨免疫学の国際学会で受賞 教員と特別研究学生が揃って栄冠

中村和貴兼任講師（歯学部口腔生化学講座）と特別研究学生の Zhu Tongxin さん（歯学研究科口腔生化学分野 2 年）が、第 10 回国際骨免疫学会（5 月 12 日～17 日：ギリシャ・クレタ島）で発表を行い、優れた演題に授与される「Travel Award」を受賞した。中村兼任講師は「A stromal niche supporting osteoclast genesis in giant cell tumour of bone」、Zhu Tongxin さんは「Spatiotemporal analysis of OPG-producing cells in the osteoimmune system」の演題で発表し、その内容が評価されて同賞に選定された。

【中村和貴兼任講師のコメント】

第 10 回国際骨免疫学会にて「Travel Award」を賜り、大変光栄に存じます。本受賞を大きな励みとし、今後も研究活動に一層精進してまいり所存です。本研究をご指導いただきました塚崎雅之教授、ならびに共同研究者の皆様にご心より感謝申し上げます。

【Zhu Tongxin さんのコメント】

This was my first time participating in an international conference. I am deeply honored to receive the Travel Award, and I was truly excited and inspired by the experience. I would like to express my sincere gratitude to Professor Tsukasaki and all the collaborators for their generous support.



左から中村和貴兼任講師、塚崎雅之教授、Zhu Tongxin さん

医工連携が産んだ「光るガーゼ」 日本医療機器学会で優秀演題賞

田代良彦講師（医学部外科学講座消化器一般外科学部門）が、第 101 回日本医療機器学会大会（6 月 4 日～6 日：幕張メッセ）で優秀演題賞を受賞した。昭和医科大学・東京科学大学・京都工芸繊維大学の三大学による医工連携で開発された「光るガーゼ」は、厚さ 10 ミリ程度であれば体内組織の裏側にあっても透過して明るく光るため、その位置をリアルタイムで確認できる。これにより、手術で使ったガーゼが体内に残ることを防ぎ、手術時間の短縮や安全性向上に寄与することが期待される。田代講師は演題名「医工連携発『光るガーゼ』の開発から臨床応用、そして上市に向けて」を発表し、製品化に至るまでの成果を示したことが高く評価され、同賞に選定された。

【田代良彦講師のコメント】

この度は、このような名誉ある賞を頂戴し大変光栄に存じます。昭和医科大学・東京科学大学・京都工芸繊維大学の三大学による医工学連携を通じ、肝機能検査で用いられる Indocyanine green (ICG) を染色した蛍光ガーゼを開発し、臨床応用、そして製品化に至るまでの成果を発表してまいりました。

手術の低侵襲化に伴い出血量が少ない手術が可能になっておりますが、ガーゼはいまだに手術の必需品として使われております。一方で、低侵襲手術は視野制限があることに加えて、触覚の制限があることから、一度ガーゼを見失うと発見に難渋するヒヤリハットは数多く発生し、幾つかのガーゼ遺残を目的にした医療機器が開発されておりますが普及には至っておらず、いまだにガーゼ遺残の報告が散見されます。

教室では、2008 年に青木武士教授（医学部外科学講座消化器一般外科学部門）が世界で初めて ICG を用いて肝区域同定に成功

し、それ以降、多くの領域で ICG 蛍光法を用いた手術を行って参りました。現在では、内視鏡手術やロボット支援下手術においても蛍光観察機器は標準装備として搭載され、それに伴って複数の蛍光医療機器が開発、臨床応用されております。

今回開発いたしました「光るガーゼ」は、新規蛍光医療機器として将来的に蛍光ガイド手術領域の新規開拓とともに、医療安全分野であるガーゼ遺残の予防にも寄与することが可能になります。

本発表は、青木武士教授のご指導の下、東京科学大学の安藤慎治前教授（物質理工学院 応用化学系）、京都工芸繊維大学の安永秀計准教授（繊維学系）とともに遂行した研究テーマであり、手術で協力して下さった教室の先生方や手術室スタッフの方々を含めて、この場をお借りして深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



左から田代良彦講師、青木武士教授

宇宙飛行士の骨量減少の謎に迫る「PLOS ONE」に研究成果掲載

茶谷昌宏准教授（歯学部歯科薬理学講座／薬理科学研究センター宇宙医科学研究グループ）と歯学研究科4年の高橋夏大さんらの研究グループが、骨を壊す細胞（破骨細胞）が重力の変化に应答して働きを変えることを明らかにし、その成果が国際的な学術誌「PLOS ONE」に掲載された。宇宙飛行士は宇宙滞在中に骨量が減少することが知られているが、その仕組みにはまだ多くの謎が残されている。本研究では、遠心機を用いて地上よりも強い重力環境を作り出し、破骨細胞の働きを調べた。その結果、重力による力が大きくなるほど破骨細胞が骨を壊す働きが弱くなり、骨を壊すために必要な細胞内の構造（アクチンリング）の形成も抑えられるこ

【筆頭著者 高橋夏大さんのコメント】

重力が細胞の働きにどのような影響を与えるのかを調べることは簡単ではなく、多くの試行錯誤を重ねました。今回、骨を壊す細胞が重力の変化に应答することを示すことができ、大変うれしく思います。研究を支えてくださった先生方や仲間の皆さまに感謝しています。

【責任著者 茶谷昌宏准教授のコメント】

細胞がどのように重力を感じ取るのかは、生命科学における重要な研究課題です。宇宙飛行では骨量が減少することが知られていることから、骨量減少に深く関わる破骨細胞に着目しました。破骨細胞は非常に大きな細胞であるため、重力応答の解析に適した細胞ではないかと考えました。

今後は、宇宙飛行による骨量減少の仕組みの解明や、骨粗鬆

とが分かった。これらの結果から、破骨細胞は自ら重力を感じ取り、その働きを調節している可能性が示された。今回の発見は、宇宙飛行中の骨量減少の仕組みの理解や予防法の開発につながるだけでなく、骨粗鬆症などの骨の病気の研究にも役立つことが期待される。なお、本研究はJAXA宇宙科学研究所 (ISAS) フロントローディング研究助成の支援を受けて実施した。

症研究への応用を目指していきたいと考えています。本研究では、破骨細胞研究の専門家である高見正道教授（歯学部歯科薬理学講座）をはじめ、多くの先生方からご指導とご助言をいただきました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

論文名／Hypergravity reduces F-actin accumulation in osteoclasts, with attenuated bone resorption

著者／Natsuhiko Takahashi, Akihiko Fujita, Yuki Azetsu, Akiko Karakawa, Mie Myers, Masamichi Takami, Masahiro Chatani

掲載誌／PLOS ONE

DOI／10.1371/journal.pone.0351542



左から高見正道教授、高橋夏大さん、茶谷昌宏准教授

日本病院総合診療医学会英文誌に臨床研究論文が掲載

論文名 Is ketotic hypoglycemia associated with carnitine deficiency?

掲載誌 *Journal of Hospital General Medicine*（日本病院総合診療医学会 英文誌）

著者 Keiya Kataoka, Kazuya Yamamoto, Chikako Naoe, Ryo Karato, Takeru Kanazawa, and Yoshifusa Abe



片岡佳也さん（臨床研修医）

日本口腔科学会学術集会 Rising Scientist賞

演題名 鈴木（遠藤）美紀助教：「モバイル型qPCR装置を用いたウイルス感染症の迅速診断法の確立」
根岸宗一郎助教：「顎関節滑膜におけるPrg4の領域特異的炎症制御機構の解明」

受賞者 鈴木（遠藤）美紀助教（歯学部口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門）、根岸宗一郎助教（同）

日程： 2026年4月16日～18日：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター



1 左から大場誠悟教授、鈴木（遠藤）美紀助教、2 左から根岸宗一郎助教、大場誠悟教授

神澤医学賞を受賞

HPVと子宮頸がんの長年の研究成果が評価

松本光司教授（医学部産婦人科学講座）が、第28回神澤医学賞を受賞した。贈呈式および受賞記念講演会は、6月5日にパレスホテル東京で開催された。神澤医学賞は、産科・婦人科領域で先見性・独創性に富んだ優れた医学研究に対し、神澤医学研究振興財団より贈られる荣誉ある賞である。松本教授は約30年にわたり、リプロダクティブ・エイジの女性にとって大きな脅威である子宮頸がん、その原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）に関する研究を続けてきた。また、HPVワクチンの有効性評価や免疫療法に関する研究など、我が国における子宮頸がん予防・制御戦略の発展に大きく寄与してきた。なお、贈呈式および受賞記念講演会の模様は、地域新聞社「市民タイムス」（6月20日版）に掲載されている。

【松本光司教授のコメント】

このたびは、第28回神澤医学賞という大変荣誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。これまでご指導・ご支援をいただきました先生方、共同研究者の皆様、ならびに研究にご協力いただいた多くの方々に、心より感謝申し上げます。

子宮頸がんは、HPVの持続感染を原因として発症する予防可能ながんです。本研究では、日本人女性を対象とした臨床疫学研究を通じて、HPV型、宿主免疫に関わるHLA（ヒト白血球抗原）、喫煙などが前がん病変の進展や自然消退に及ぼす影響を明らかにし、子宮頸がん発症リスクの評価や前がん病変の管理に役立つ知見を示してきました。

また、多施設共同研究のMINTスタディで日本におけるHPVワクチンの実施効果を検証し、若年世代においてワクチン標的型HPVに関連する前がん病変や子宮頸がんが減少していることを明



講演の様子

らかにしました。これらの成果は、HPVワクチン接種と検診を柱とする子宮頸がん予防対策の重要性を裏付けるものであり、子宮頸がん制圧に向けた科学的基盤となるものです。

本受賞を励みに、今後子宮頸がんの予防と制圧に資するエビデンスの創出に努め、医学・医療の発展に少しでも貢献できるよう、研究活動に一層精進してまいります。

※MINTスタディは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」において、2019年度から2027年度まで継続して採択された研究課題として実施されている。

研究業績

題名／「我が国のHPV感染と子宮頸部発がんに関する臨床疫学的・免疫学的研究」

著者／昭和医科大学 医学部 産婦人科学講座 教授 松本光司

日本皮膚科学会総会 優秀演題賞

演題名 「HLA-B*13:01は重症型薬疹においてユニバーサルバイオマーカーとなり得る」

受賞者 須永知里助教（横浜市北部病院皮膚科）

日程： 2026年6月11日～14日：国立京都国際会館



左から須永知里助教、渡辺秀晃教授

日本結合組織学会学術大会 Young Investigator Award受賞

演題名 「Hic-5標的治療による特発性肺線維症の細胞外マトリックス制御機構」

受賞者 田辺桃子兼任講師（細胞外マトリックス研究所）

日程： 2026年6月25日～27日：早稲田大学国際会議場



田辺桃子兼任講師

2年連続で優秀査読者に選出 JIC誌のReviewer of the Year 2025

前田真之准教授（薬学部臨床薬学講座感染制御薬学部門）が、3つの医療系学会による英文機関誌「Journal of Infection and Chemotherapy (JIC)」の「Reviewer of the Year 2025」を受賞し、第100回日本感染症学会総会・学術講演会／第74回日本化学療法学会総会 合同学会（5月22日～24日：東京国際フォーラム）において表彰された。「Reviewer of the Year」は、JICの査読を積極的に担当し、投稿論文の質の向上に大きく貢献した査読者に贈られる賞である。前田准教授は2024年に続き、2年連続での受賞となった。



前田真之准教授

【前田真之准教授のコメント】

このたび、Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) のReviewer of the Year 2025を受賞いたしました。私個人としては2024年と2025年の2年連続での受賞となりました。

JICは、我が国の感染症・化学療法領域の学術研究・啓発活動において中心的な役割を果たしている日本感染症学会、日本化学療法学会、および日本環境感染学会の英文機関誌です。特に、日本感染症学会は設立から100年を迎えた歴史ある団体で、感染症学の進歩と普及を通じて医療の発展および国民の健康増進に寄与してきました。

本賞の選考においては、年間の論文査読数に加え、改善につながる査読コメントの内容、提出期限の遵守などが考慮されます。すなわち、量・質・スピードを担保しながら科学の発展に貢献し、研究者として重要な役割を果たしたことが評価されたということになります。

一方で、論文の査読（peer review）は、研究者のボランティア、つまり互助の精神に基づく無償の自発的活動で成り立っております。しかも、通常は匿名で行われるため、その努力や貢献が見えにくい仕組みとなっています。そういった背景があるなかで、近年は世界的な学術研究の発展に伴って多数の論文査読の依頼が寄せられますが、日々の教育・研究・臨床の業務の中では、査読を引き受ける優先順位は低くなりがちです。しかしながら、専門性の高い学術領域における最先端の知見を適切に解釈、評価できるのは同じ領域の研究者だけです。査読依頼は当該分野の専門家であることが認められた証であり、責任をもって積極的に引き受けることを心がけています。

今回、このような形で評価されたことは研究者として大変嬉しく思っております。今後も引き続き、国際的な学術誌の査読を通じて、医学や医療の発展に貢献していきたいと思っております。

日本循環器学会関東甲信越地方会 最優秀賞

演題名	「悪性リンパ腫の心臓への浸潤形態から生前の心電図異常の機序を考察し得た1剖検例」
受賞者	大野淳成さん（医学部3年）
日程：場所	2026年6月13日：ステーションコンファレンス東京



左から、松山高明教授、大野淳成さん

日本蛍光ガイド手術研究会学術集会 優秀演題賞

演題名	「大腸癌手術におけるICG蛍光法と毛細血管スコープを用いた吻合部の定量的血流評価と縫合不全予測」
受賞者	井関貞仁助教（医学部外科学講座消化器一般外科学部門）
日程：場所	2026年6月5日～6日：石川県加賀市ホテルアローレ



左から、青木武士教授、井関貞仁助教

日本老年歯科医学会学術大会 優秀課題口演賞と候補に選出

優秀課題口演賞

受賞者 寺岡正譜さん（歯学研究科3年）

研究題目 「高齢者に対する新義歯装着後の咀嚼機能改善に
関与する口腔機能因子の解明」

優秀課題口演賞 コンペティション候補選出

受賞者 小柳快さん（歯学研究科3年）

研究題目 「静電容量型圧力マッピングセンサーを備えた咬合力計を用いた地域在住高齢者の咬合力とサルコペニアの関連」

日程：場所 2026年6月12日～14日：大阪国際会議場



左から寺岡正譜さん、古屋純一教授、小柳快さん



全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社（本社：東京都港区芝）は、
全国 47 都道府県で 760 以上の調剤薬局を展開している企業です。

— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和医科大学生活協同組合

旗の台：3788-2322（内線）8268 アミ：3785-9729（内線）8369
吉田：0555-23-8505 洗足：3787-4432 横浜：045-985-9624

なんでもご相談下さい。

医学堂書店

有限会社 医学堂書店
〒142-0064 東京都品川区旗の台1-11-9
TEL 03-3783-9774 FAX 03-3783-3156
Email igakudo@peridot.bforth.com

あなたには眠りやすい角度がある。
「入眠角度」という新提案。

ベッドが動けば、眠りは変わる。

Active Sleep BED

activesleep.jp

パラマウントベッド株式会社
東京支店 〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号
www.paramount.co.jp
☎(03)3648-1171(代)

翠昭祭 を 開催

6月27日、富士吉田キャンパスにて翠昭祭を開催した。
今年度は『百花繚乱～誰かではなく、全員が主人公～』をスローガンに掲げ、実行委員を中心に学生主体で準備を進めてきた。

当日は、台風の接近に伴い、会場を体育館へ変更して実施。学生たちは8つの団に分かれ、それぞれオリジナルTシャツを着て競技に臨んだ。玉入れや大縄跳びなどのさまざまな種目で熱戦が繰り広げられ、【緑団】が見事優勝し、会場は大いに盛り上がった。学部を越えて協力し合い、仲間との絆を深めた一日。

本特集では、笑顔と歓声に包まれた翠昭祭の様子を紹介する。



みんなで咲かせた百の花

実行委員長
保健医療学部 吉住 優那

実 行委員長などの代表を務めるのは初めてで、準備が始まる前も始まってからも不安な気持ちが常にありました。しかし、幹部のみんなをはじめ、先生方や寮監さん、多くの方々に助けていただき、当日を迎えることができました。不慣れで至らない点も多かった私を最後まで支えてくれた実行委員たちに感謝の気持ちでいっぱいです。



翠昭祭2026を通して

副実行委員長(会計)
医学部 村上 夢

当 日は雨の中での開催となりましたが全員が全力で楽しもうとする熱気に満ち溢れた一日になったと感じました。実行委員たちが当日までに注いだ熱量があったからこそ、当日の様々な場面でも学生同士で臨機応変に対応、解決できたのだと思います。終了後に楽しかったという声を学生から聞くことができ達成感を得ることができました。



仲間と創り上げた翠昭祭

副実行委員長(総務)
歯学部 中山 知優

今 年は前年とは異なり、スクエアガーデンでの室内開催となりました。限られた準備期間の中、多くの方々の協力のおかげで無事に開催することができ、当日は想像以上の盛り上がりとなりました。委員として仲間と協力しながら運営する難しさややりがいを実感し、柔軟に対応する大切さを学ぶことができた貴重な経験となりました。



熱気あふれる翠昭祭

副実行委員長(総務)
保健医療学部 長島 梨香

当 日は大雨のため体育館での開催となりましたが、天候を感じさせないほど盛り上がり、とても熱い雰囲気の中、翠昭祭となりました。全員が自分の競技はもちろん、仲間の応援にも全力で取り組む姿が印象的でした。準備ではさまざまな人と連携を取る大変さもありましたが、みんなで協力し、思い出に残る最高の翠昭祭となりました。



最高の思い出

副実行委員長(会計)
薬学部 滝澤 菜優

台 風の影響で、本来の企画とは違う形となってしまったうえ、前日の地震により、不安が入り混じる中での開催となった翠昭祭でした。しかし開会後は、多くの学生が楽しそうにしている姿が見られ、実行委員としても安心しました。多くの苦労も少しの衝突もありましたが、貴重な経験をし、かけがえのない思い出となりました。楽しかったです!!



皆に支えられた翠昭祭

食事部門長
医学部 高嶺 舞

食 事部門は、今年度新たに新設された部門ということもあり、数々の苦労がありました。しかし、副部門長をはじめとする部門員や担当教員の皆様の手厚い支えのおかげで、十分に役割を全うすることができたと感じております。特に翠昭祭の前日には、悪天候のトラブルによる急な仕事の変更にも、臨機応変に対応してくれた部門員には心から感謝しています。





感謝と学びと喜びの翠昭祭

競技部門長
薬学部 平井 凜

部

門長としての役割は、想像以上に変なものでしたが、仲間や先生方が親身になって協力してくれたおかげで、多くの方に楽しんでいただける翠昭祭を実現することができました。今回の経験を通して、報告・連絡・相談の重要性を改めて実感し、多様な視点から物事を考えることの大切さも学ぶことができました。貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。



支え合いで創り上げた翠昭祭

救護部門長
医学部 森田 未来乃

準

備期間中は、限られた時間の中で様々なイレギュラーに対応し、酸いも甘いも経験する日々でしたが、当日はそれまでの苦労を忘れてしまうほど皆さんが翠昭祭を楽しんでくださり、私にとっても最高の思い出となりました。多くの方々に支えられて安全に運営できたことに、医系総合大学ならではの素晴らしい連携と一体感を実感しました。本当にありがとうございました。



翠昭祭の魅力を広げて

広報部門長
医学部 高寺 昶太朗

広

報部門は、多くの人に翠昭祭の魅力を知らせてもらい、当日をより楽しみにしてもらえるよう試行錯誤を重ねながら活動してきました。特に応援合戦に関する広報は難しく、悩む場面も多有りましたが、所属する色に関係なく多くの方に盛り上げていただき、成功させることができました。翠昭祭が皆さんにとって思い出に残る行事となっていれば幸いです。



支える側だからこそできた経験

装飾環境部門長
医学部 高城 江玲奈

部

門長は想像以上に責任が重い仕事で、くじけそうになったこともありました。しかし、部門員や友人、先生方、事務課のみなさんに支えられて最後までやり遂げることができました。翠昭祭当日、みんなの楽しそうな様子を見た時、「今まで頑張ってきたよかった」と心から思いました。支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。



雨を吹き飛ばす盛り上がり

物品管理部門長
保健医療学部 町田 悠日

翠

昭祭当日は雨天のためスクエアガーデンでの開催となり、リレーも中止になったため、盛り上がるのか不安もありました。しかし、実際には会場全体が大きな声援と笑顔で活気にあふれていました。特に応援合戦での声量と盛り上がりには驚きました。学部を越えたチームで協力し、全力で楽しめる翠昭祭の雰囲気は本当に素晴らしいと感じました。

Database

令和8年度

科学研究費助成事業採択課題一覧

令和8年度の科学研究費助成事業の交付は全体で346件が採択され、総計で4億915万円が交付される。

各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

■医学研究科：135件 1億5,810万円 ■歯学研究科：105件 1億3,070万円 ■薬学研究科：36件 4,325万円
■保健医療学研究科：32件 2,110万円 ■富士吉田教育部：3件 640万円 ■研究所等：35件 4,960万円

今号では、医学研究科の一覧を掲載する。

※所属・役職は令和8年5月交付時点

医学研究科

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
学術変革領域研究(A)	生化学分野	講師	森戸 大介	15,400,000	タンパク質寿命の変容と血管狭窄
	生体調節機能学分野	准教授	本間 元康	2,200,000	顔貌の変化が顎変形症患者の認知機能と精神疾患傾向に与える作用メカニズムの解明
	生化学分野	講師	原口 省吾	3,500,000	加齢に伴う皮膚局所内分泌系の変容により引き起こされる加齢性皮膚疾患の分子機序解明
基盤研究(B)	リウマチ・膠原病内科学分野	教授	矢嶋 宣幸	4,900,000	RA診療の質指標の新たな挑戦：QI-PXギャップ評価と臨床監査介入で診療の改善を目指す
	消化器内科学分野	兼任講師	森 悠一	1,500,000	がん検診へのAI介入により、大腸癌は予防できるか -大規模ランダム化試験
	救急・災害医学分野	教授	宮本 和幸	2,200,000	熱中症・敗血症(全身性炎症)における急性期～中長期の神経・液性シグナル連関の解明
		教授	土肥 謙二	2,600,000	熱中症における脳障害の機構解明と新規バイオマーカーと治療法の開発
	肉眼解剖学分野	講師	井上 由理子	1,300,000	自律神経異常と皮膚免疫機能低下が褥瘡治療および感染リスクに与える影響の解明
	生体制御学分野	准教授	安達 直樹	1,000,000	胎児神経幹細胞運命を攪乱する周産期ストレスの発達段階依存性と性差解析
		講師	高山 靖規	1,000,000	TRPV1 / ANO1 分断による炎症性疼痛の革新的治療基盤の構築
	生体調節機能学分野	教授	泉崎 雅彦	1,200,000	睡眠時無呼吸による認知機能障害での海馬アストロサイトの役割の解明と治療標的の探索
		教授(員外)	政岡 ゆり	600,000	嗅覚 - 記憶の連関を用いた脳内ビジュアルイメージトレーニング法の確立
	生化学分野	教授	前演 朝彦	1,200,000	PICT1 を起点とする核小体ストレス応答機構の全貌解明
		講師	清水 芳実	1,200,000	ビフィズス菌の腫瘍集積性に着目した新規膀胱がん治療薬の開発
		助教	折井 みなみ	700,000	分子形態学に基づいたもやもや病の病型分類
基盤研究(C)	臨床病理診断学分野	准教授	塩沢 英輔	300,000	橋本病関連リンパ腫HTALの疾患概念の確立と発生機序に関する臨床病理学的検討
	医科薬理学分野	兼任講師	小山田 英人	1,100,000	悪性高熱症の術前遺伝子診断に繋がる重要なRyR1 変異体215種の機能解析
	衛生学公衆衛生学分野	准教授	山内 武紀	800,000	感染症における定点把握の妥当性に関する研究
		教授	松山 高明	1,100,000	心筋疾患による心臓の末梢血管の病理形態学的変化に着目した心不全発症機序の解明
		教授(員外)	城 祐一郎	1,300,000	終末期医療における延命治療の中止等の尊厳死法制に向けた国内的・国際的実態調査
		准教授	草野 麻衣子	1,600,000	カンナビノイド製品摂取後に生じる尿中薬物検査キットのTHC擬陽性問題の体系的解明
		教授	伊與田 雅之	1,100,000	腎ILC2活性化によるCKD制御の試み
	微生物学免疫学分野	准教授	石川 裕樹	1,000,000	インフルエンザウイルス感染における早期ウイルス排除は細菌二次感染予防に寄与するか
		講師	久野 芳裕	500,000	iNKT細胞の腎線維化制御機構と時相による極性変化についての検討
		講師	松坂 恭成	500,000	CKDにおけるIL-33の二面的作用に着目したILC2標的型精密治療基盤の構築
	医学教育学分野	准教授	鈴木 慎太郎	500,000	仮想／拡張現実シミュレーション学修により医療事故を防ぐ看護・医学教育プログラム
		助教	三上 貴浩	900,000	ICT／AI／XR統合型医学教育における学習者特性に応じた最適化モデルの構築・実証研究
	リウマチ・膠原病内科学分野	助教	羽多野 美香	800,000	保険データを用いた妊娠SLE患者の診療の質指標(QI)によるエビデンス診療ギャップ調査
		助教	三浦 瑤子	900,000	LINEを使ったHPVワクチン接種推奨プログラムの開発検証と免疫抑制剤と子宮頸癌の関連の検討
		兼任講師	辻本 康	700,000	大規模言語モデルによる診療ガイドライン改訂支援システムの開発と多疾患への応用

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額 (円)	研究課題名
リウマチ・膠原病内科学分野	普通研究生	城下 彰宏	2,600,000	大気汚染物質曝露が小児喘息発症に及ぼす影響とクリティカルウィンドウの特定	
糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	准教授	森 雄作	1,200,000	食事由来の終末糖化産物が造精機能障害を惹起する分子機序の解明と治療法の開発	
	講師	寺崎 道重	700,000	外因性の終末糖化産物による動脈硬化の分子機構の解明と機能性核酸医薬によるその阻止	
消化器内科学分野	教授	大塚 和朗	1,300,000	免疫-上皮-間葉連関モデルを用いたクローン病小腸狭窄に対する新規治療法の開発	
	准教授	坂木 理	1,000,000	肝線維化治療に特化した新たな中鎖脂肪酸療法の確立	
	講師	一政 克朗	1,200,000	人工知能による、デジタルパソロジーを活用した早期大腸癌の低侵襲治療の構築	
	講師	前田 康晴	1,300,000	潰瘍性大腸炎患者の行動変容による長期寛解維持を支える統合AIモバイルヘルスの構築	
	講師	石橋 史明	1,600,000	アイトラッキング技術を応用した内視鏡医の疲労度推定システムの開発	
循環器内科学分野	教授	新家 俊郎	700,000	新規冠微小循環定量法による左室機能保持心不全患者に対する監視下運動療法効果の解明	
	教授(員外)	木庭 新治	1,200,000	心臓リハビリテーションによるトリグリセリド代謝を介した抗動脈硬化作用機序の解明	
	准教授	松本 英成	800,000	ブラーク内出血とハプトグロビン遺伝子多型から見た新たな冠動脈イベント予防戦略	
	准教授	樋口 聡	1,000,000	代謝異常関連脂肪性肝疾患を合併した心不全における心臓リハビリテーションの効果	
腎臓内科学分野	教授	本田 浩一	2,000,000	慢性腎臓病のエピゲノム異常と栄養障害、サルコペニアとの関係	
	准教授	溝渕 正英	800,000	CKDの骨格筋保護におけるMgとCa感知受容体刺激のクロストークの役割	
	准教授	鈴木 泰平	1,400,000	CD36に着目したボドサイト細胞死分子機構の解明と新規ネフロゼ治療標的の同定	
	講師	加藤 憲	1,600,000	iPS細胞を用いた長期腹膜透析を可能とするための腹膜再生医療の開発	
血液内科学分野	教授	服部 憲路	300,000	臍帯血移植後の老化免疫細胞の探索	
脳神経内科学分野	准教授	金野 竜太	100,000	失語症患者の統語機能を支える脳内ネットワークの構造的再編メカニズムの解明	
	准教授	黒田 岳志	600,000	音声解析AIを用いた認知機能評価アプリケーションの開発と有用性の検証	
腫瘍内科学分野	特任教授	角田 卓也	1,400,000	免疫チェックポイント阻害剤の完治機序から見た耐性克服に関する探索的研究	
	教授(員外)	堀池 篤	1,600,000	高食物繊維摂取と腸内細菌叢改変による免疫療法耐性克服機構の解明	
	講師	大熊 遼太郎	1,300,000	糖鎖を介した免疫抑制機構の解明と免疫療法不応性消化器癌の革新的克服戦略	
	助教	鈴木 梨沙子	1,400,000	非古典的単球及び非古典的単球由来細胞における新規同定単球遺伝子の機能解明	
心臓血管外科学分野	教授(員外)	長岡 英気	700,000	手術支援ロボットを用いた心臓手術に必要な力学の基礎データ構築	
呼吸器外科学分野	准教授	遠藤 哲哉	1,000,000	肺がんにおける肺動脈血由来T細胞を用いた術後再発バイオマーカーの開発	
消化器一般外科学分野	教授(員外)	福島 光浩	100,000	頸部術後出血による創部内圧上昇に伴う気道閉塞を防止する創部内圧持続測定法の開発	
	教授(員外)	大塚 耕司	500,000	安全なロボット支援下手術を目指したロボットエネルギーデバイスにおける熱損傷の検証	
	講師	加藤 容二郎	300,000	少子化対策としての心停止下提供子宮移植普及へ向けた基礎研究(動物実験モデル)	
	講師	富岡 幸大	600,000	解剖誤認根絶を目指した外科医の認識をサポートする新規AIシステムの開発	
	講師	田代 良彦	1,400,000	より安全で精緻な手術を実現する光るガーゼ開発	
乳腺外科学分野	助教	土田 寧恵	400,000	T細胞受容体レバトア解析を用いた乳癌術前化学療法の早期反応性予測	
小児外科学分野	准教授	佐藤 英章	1,700,000	アドリアマイシン投与VATER症候群モデルにおける遺伝子発現様式の三次元的構築	
脳神経外科学分野	講師	小林 裕介	1,100,000	診断時点から活用可能なglioma専用NGSパネルによる個別化医療モデルの実装	
整形外科分野	教授	川崎 恵吉	600,000	深層学習を用いた舟状骨偽関節例における骨壊死の術前・非侵襲的診断の開発	
リハビリテーション医学分野	教授(員外)	笠井 史人	1,300,000	遠隔リハビリテーションシステムが切り拓く、新しい在宅診療体系の実践と検証	
	講師	川嶋 章弘	1,400,000	ADORA2B抑制による胎盤幹細胞の酸化ストレス応答とPE予防戦略の開発	
	講師	三村 貴志	1,000,000	深層学習を用いたコルボスコピーAI診断支援システムの開発	
	講師	金子 真由美(徳中)	500,000	アスピリン抵抗性の遺伝学的解析による妊娠高血圧腎症の病態解明と予防・治療開発	
	助教	小林 弘樹	1,100,000	大腰筋への理学療法が初産婦の分娩経過に与える影響の解明	
	助教	小松 玲奈(香川)	500,000	深層学習を用いた超音波検査における胎盤機能不全の予測	
産婦人科学分野	助教	中林 誠	1,200,000	AI画像認識モデルを用いた子宮マニピュレーターロボットの自動操縦	

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額 (円)	研究課題名
皮膚科学分野	教授	猪又 直子	1,500,000	慢性蕁麻疹におけるSTAP-2の脱顆粒制御機構の解明	
	教授(員外)	渡辺 秀晃	1,100,000	SJS／TEN患者の全ゲノム解析・HLA3次元立体構造解析による発症機序・治療薬の探究	
	助教	雷 小峰	1,400,000	シングルセル解析を用いた全身性強皮症新規標的分子の解析	
耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	講師	洲崎 勲夫	1,100,000	好酸球性鼻副鼻腔炎の難治化におけるIL-4Raを介したType2炎症過剰亢進機序の解明	
	助教	村山 正和	1,100,000	イソ酪酸のマクロファージへの作用機序解明とイソ酪酸基質バリンの抗腫瘍効果の検討	
小児内科学分野	教授(員外)	今井 孝成	1,500,000	経口免疫療法の舌下併用ランダム化比較試験と評価指標として抗原結合親和性の探索	
	教授(員外)	加藤 光広	1,200,000	深層学習モデルで解き明かす発達性てんかん性脳症と脳形成異常の遺伝素因と画像診断	
	准教授	神谷 太郎	2,200,000	小児食物アレルギー診療における食物経口負荷試験用製剤の設計と臨床試験	
	助教	金澤 建	500,000	小児用非接触型バイタルサインモニタリングシステムの研究開発	
小児循環器内科学分野	助教	本多 愛子	400,000	鶏卵のFPIES (food protein-induced enterocolitis) の自然歴とバイオマーカーの探索	
	教授(員外)	藤井 隆成	800,000	3Dプリンティングによる動脈管ステント留置最適化アルゴリズムの構築	
精神医学分野	助教	齋藤 真理子	900,000	非造影MRIによる先天性心疾患患者のリンパ管の形態評価に関する研究	
	教授	真田 建史	1,400,000	腸管免疫システムをターゲットとする漢方生薬を用いたうつ病治療の予備研究	
放射線科学分野	准教授	富岡 大	200,000	SNSを用いた妊娠中の心理生活支援による産後うつ病予防効果方法の確立	
	准教授	竹山 信之	800,000	上皮性卵巣癌のMRIでの組織型予測モデルの構築：深層学習と放射線科医の診断能の比較	
麻酔科学分野	准教授	西村 晶子	600,000	短時間作用性全身麻酔薬レミマゾラムが脳神経発達に与える影響	
	講師	小林 玲音	1,400,000	人工膝関節置換術後の早期ペインクリニック介入による慢性疼痛予防	
集中治療医学分野	教授	阿部 智一	700,000	日本敗血症データバンクの構築と敗血症の長期健康予後に影響を与える因子の解析	
生化学分野	講師	森戸 大介	1,500,000	異なる二種のもやもや病モデル構築に向けて	
	講師	奥茂 敬恭	1,500,000	難治性骨折に対する治打撲一方の治療効果に関する基礎的解析	
生体制御学分野	助教	守屋 正道	1,300,000	神経筋電気刺激による自律神経-免疫系連関の解明と敗血症超急性期治療への新戦略	
	講師	渡邊 裕宣	2,200,000	睡眠時無呼吸症候群に伴う腎障害進展の遺伝子メカニズム解明と治療介入戦略の可能性	
臨床病理診断学分野	講師	南雲 佑	1,400,000	細胞・組織のVR教材(3D図録)の作製とその利用による学習効率および効果の改善	
	助教	佐々木 陽介	100,000	リンパ節穿刺吸引細胞診における細胞塗抹標本の補助的診断手法利用に向けた検討	
	助教	和田 あかね	1,000,000	空間オミクス解析を用いた粘表皮癌の癌幹細胞分化と病態の連関解明	
医科薬理学分野	教授	小口 達敬	1,300,000	エルゴチオネインの神経保護作用とアルツハイマー型認知症治療薬への応用	
	助教	馬場 勇太	600,000	骨髄異形成症候群の疾患活動性を制御する腸内細菌・短鎖脂肪酸の解析	
	助教	船山 英治	1,600,000	腫瘍微小環境における酸化ストレスと硫黄修飾を介したNK細胞の活性制御機構の解明	
法医学分野	助教	根本 紀子	900,000	生殖技術における人体資源利用の諸問題の整理及び検討	
呼吸器アレルギー内科学分野	助教	江波戸 貴哉	700,000	IL-34のM2マクロファージを介した喘息病態における役割の解明	
リウマチ・膠原病内科学分野	講師	柳井 亮	800,000	SLEの遺伝情報を含む診断時コホート構築-個別医療を目指した機械学習とクラスター解析	
	助教	小黑 奈緒	200,000	ステロイド誘発性満月様顔貌の定量による容姿変容ストレスの解明と管理ツールの開発	
	助教(医科)	津島 浩	300,000	SGLT2阻害薬使用による感染症発症と免疫抑制剤の交互作用に関する検討	
糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	講師	八島 広典	700,000	動物性タンパク質による糖尿病性腎症の増悪機構解明と機能性核酸医薬を用いた治療	
消化器内科学分野	講師	田邊 万葉	900,000	内視鏡による動的評価で革新するGERD診断法の確立と臨床応用	
	講師	角 一弥	1,800,000	GERDにおける胃噴門粘膜感受性の解明 -ARMS標本による分子解析とバイオマーカー探索	
	講師	小形 典之	1,100,000	中等症・重症UC症例に対するAdvanced Therapyの治療効果を予測するAIソフトウェア開発	
循環器内科学分野	講師	居軒 和也	100,000	日本の大腸がん死亡減少のための新たなアプローチ：消化器内視鏡専門医偏在の評価	
	助教	峯岸 洋介	1,000,000	最も汎用的に使用される大腸内視鏡AIの開発	
腎臓内科学分野	助教	奥村 大志	1,700,000	LLM搭載AI大腸内視鏡における医師技能低下防止のための完全自動教育システムの開発	
	兼任講師	佐藤 雄太	400,000	排便状態から大腸癌と便の有無を認識する人工知能アプリケーションの開発	
脳神経内科学分野	講師	南雲 さくら	100,000	急性心筋梗塞患者の冠血流予備能改善に対する心臓リハビリテーションの効果	
脳神経内科学分野	講師	齋藤 友広	300,000	尿毒症環境下におけるマグネシウムとカルシメディクスの石灰化と骨量への影響	
	講師	森 友紀子	500,000	認知症に対する非薬物療法の効果を可視化する評価方法の探索	

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額 (円)	研究課題名
若手研究	腫瘍内科学分野	講師	下川 雅弘	1,100,000	切除不能・再発胆道癌の免疫化学複合療法に対する有酸素運動による革新的介入
	呼吸器外科学分野	講師	氷室 直哉	1,200,000	動脈血マイクロRNAによる肺癌の早期診断手法の開発
		講師	瀬戸 克年	100,000	バイオインフォマティクスに基づく間質性肺炎合併肺癌、術後急性増悪のメカニズム解析
	乳腺外科学分野	助教	吉田 伶香	1,100,000	Plasma-safe-seqs技術を用いた乳癌再発の早期診断法の確立
	整形外科科学分野	助教	豊田 仁志	1,600,000	NKG2DシグナルによるγδT細胞のIL-17A産生を介した骨修復促進機構の解明
	産婦人科学分野	講師	廣瀬 佑輔	200,000	子宮頸癌における新規治療マーカー：血中HPV-DNA E7定量法の確立
		講師	岡田 義之	1,600,000	OASIS教育の標準化と経会陰超音波における診断
	泌尿器科学分野	助教	松井 祐輝	700,000	化学療法誘因性末梢神経障害への冷却療法に対する血流スコープ評価と新規治療法の開発
	小児内科学分野	講師	岡田 祐樹	500,000	Avidityに着目した食物経口免疫療法の出口戦略
		講師	布山 正貴	400,000	ウェアラブル超音波器具を用いた小児過活動膀胱の失禁の実態評価
		助教	及川 洸輔	400,000	早産・極低出生体重児および正常産児におけるFGF-23の動態の解明
		助教	日隈 のどか	700,000	fNIRSを用いた早産児の学齢期の前頭葉機能に関する研究
	小児循環器内科学分野	助教	山下 恒聖	1,000,000	早産・低出生体重児におけるアレルギー・早産児合併症予防のためのドナーミルクRCT
			矢内 俊	3,000,000	心音図検査装置を用いた先天性心疾患心音ライブラリの構築
	麻酔科学分野	助教	武富 麻恵	1,300,000	三叉神経痛に対する神経ブロック後の画像変化 一効果的治療は脳の構造を回復するー
	救急・災害医学分野	助教	鈴木 恵輔	1,400,000	エネルギー代謝から考える熱中症予防薬の開発
		助教	井上 元	400,000	重症脳障害の後遺症軽減を目指す新戦略：抗痙攣薬の直接的抗酸化作用の解明
	総合診療医学分野	講師	平井 隆仁	900,000	脾切除後脾液瘻克服を目的とした、腸内・脾内細菌叢の網羅的解析
研究活動 スタート支援	医科薬理科学分野	助教	船山 英治	1,300,000	難消化性タンパク質の腸内細菌代謝を介した抗腫瘍免疫作用の解明

次号（Dec. 2026）では、歯学研究科と薬学研究科の一覧を掲載する。

令和9年度

入学試験要項

医学部・薬学部における新たな入試区分の新設、保健医療学部における併願制度の拡充など

令和9年度昭和医科大学入学試験要項を公開した。昨年度からの主な変更点等は、以下のとおりである。

〈令和9年度入試のポイント・変更点〉

1. 医学部における新たな入試区分学校推薦型選抜入試（指定校）の新設

2. 薬学部における新たな入試区分大学入学共通テスト併用入試の新設

3. 保健医療学部の一般選抜入試（Ⅰ期・Ⅱ期）において、リハビリテーション学科および医療技術学科間で併願可能

4. 出願書類審査の点数化なし（総合型選抜入試を除く）※前年度継続
- ※詳細は昭和医科大学受験生サイトをご確認ください

令和9年度 入学試験日程

医学部				
※令和9年度 医学部地域枠選抜入試については、文部科学省へ入学定員増員認可申請中であるため、詳細は12月上旬に受験生サイトにて公開予定です。				
入試区分	募集人員	出願期間（郵送必着）	試験日	発表
学校推薦型選抜入試 ※指定校・特別協定校含む	17	令和8年11月1日(日) ～8日(日)	令和8年11月14日(土)	令和8年12月1日(火) 15:00
卒業生推薦入試	10			
一般選抜入試（Ⅰ期）	73	令和8年12月7日(月) ～令和9年1月21日(木)	一次:令和9年2月5日(金) 二次:令和9年2月13日(土)・14日(日)	一次:令和9年2月10日(木) 12:00 (正午) 二次:令和9年2月15日(月) 12:00 (正午)
一般選抜入試（Ⅱ期）	10	令和9年2月1日(月) ～2月23日(火祝)	一次:令和9年3月6日(土) 二次:令和9年3月13日(土)	一次:令和9年3月10日(木) 12:00 (正午) 二次:令和9年3月15日(月) 12:00 (正午)

歯学部 薬学部 保健医療学部				
リハ（言）：リハビリテーション（言語聴覚療法学） リハ（視）：リハビリテーション（視覚機能療法学） 医技（放）：医療技術（診療放射線技術学） 医技（聴）：医療技術（臨床工学） 医技（歯）：医療技術（歯科衛生学）				
入試区分	募集人員	出願期間（郵送必着）	試験日	発表
総合型選抜入試	歯 9 薬 17 看 15 リハ（理） 9 リハ（作） 7 リハ（言） 7 リハ（視） 7 医技（放） 9 医技（工） 9 医技（歯） 7	令和8年9月1日(火) ～15日(火)	歯：令和8年10月3日(土) ※書類審査合格者のみ	書類審査:令和8年9月29日(火) 15:00 試験:令和8年11月1日(日) 12:00 (正午)
			薬・保:令和8年10月3日(土)	令和8年11月1日(日) 12:00 (正午)
学校推薦型選抜入試 ※指定校・特別協定校含む	歯 29 薬 41 看 43 リハ（理） 12 リハ（作） 4 リハ（言） 4 リハ（視） 4 医技（放） 12 医技（工） 12 医技（歯） 4	令和8年11月1日(日) ～8日(日)	令和8年11月14日(土)	令和8年12月1日(火) 15:00
卒業生推薦入試	歯 7 薬 5 看 若干名 リハ（理） 若干名 リハ（作） 若干名 リハ（言） 若干名 リハ（視） 若干名 医技（放） 若干名 医技（工） 若干名 医技（歯） 若干名			
編入学試験（歯学部2年次編入、 看護学科3年次編入）	歯 若干名 看 10			
大学入学共通テスト 併用入試（薬学部のみ）	薬 10	令和8年12月7日(月) ～令和9年1月21日(木)	大学入学共通テスト： 令和9年1月16日(土)・17日(日) 化学・面接:令和9年2月4日(木)	令和9年2月12日(金) 15:00
一般選抜入試（Ⅰ期）	【Ⅰ期】 歯 42 薬 50 看 33 リハ（理） 7 リハ（作） 3 リハ（言） 3 リハ（視） 3 医技（放） 7 医技（工） 7 医技（歯） 3	令和8年12月7日(月) ～令和9年1月21日(木)	令和9年2月6日(土)	令和9年2月12日(金) 15:00
大学入学共通テスト 利用入試	歯 4 薬 4 看 4 リハ（理） 2 リハ（作） 1 リハ（言） 1 リハ（視） 1 医技（放） 2 医技（工） 2 医技（歯） 1		大学入学共通テスト： 令和9年1月16日(土)・17日(日) 面接： 歯・保:令和9年2月6日(土) 大学入学共通テスト： 令和9年1月16日(土)・17日(日) 面接： 薬:令和9年2月4日(木) または6日(土) ※両日程出願可能(条件あり)	
医学部一般選抜入試（Ⅰ期） 利用の薬学部併願入試	3	令和8年12月7日(月) ～令和9年1月21日(木)	一次:令和9年2月5日(金) 二次:令和9年2月13日(土)・14日(日)	一次:令和9年2月10日(木) 12:00 (正午) 二次:令和9年2月15日(月) 12:00 (正午)
一般選抜入試（Ⅱ期）	【Ⅱ期】 歯 5 薬 10 看 若干名 リハ（理） 若干名 リハ（作） 若干名 リハ（言） 若干名 リハ（視） 若干名 医技（放） 若干名 医技（工） 若干名 医技（歯） 若干名	令和9年2月1日(月) ～2月23日(火祝)	令和9年3月7日(日)	令和9年3月9日(火) 15:00

学内会議報告



就任のお知らせ (6月9日 理事会承認)

昭和医科大学病院附属東病院長 (再任)

村上 秀友

医学部内科学講座 (脳神経内科学部門) 担当 教授
[勤務地: 昭和医科大学病院附属東病院脳神経内科]
任期: 令和8年4月1日～令和11年3月31日

医学部統括外科学講座責任者 (再任)

渡井 有

医学部外科学講座 (小児外科学部門) 担当 教授
[勤務地: 昭和医科大学病院小児外科]
任期: 令和8年4月1日～令和11年3月31日

医学部統括内科学講座責任者



新家 俊郎

医学部内科学講座 (循環器内科学部門) 担当 教授
[勤務地: 昭和医科大学病院循環器内科]
任期: 令和8年4月1日～令和11年3月31日

昭和医科大学臨床医学共同研究室長 (再任)

相良 博典

特任教授
昭和医科大学病院長
任期: 令和8年4月1日～令和11年3月31日

特任教授



後閑 武彦

選考事由: 保健医療学部医療技術学科診療放射線技術学専攻の教育のため
任期: 令和9年4月1日～令和13年3月31日

特任教授 継続

任期: 令和8年4月1日～令和9年3月31日

相良 博典 (以上、1名)

理事会関係

◆研究室のセンター化について

【目的】 研究科の枠組みを超えた学際的な研究活動を展開する研究拠点として、多様な背景を持った研究者が連携し、生命科学に関する先進的な研究および革新的な医療技術や治療法の創出に取組み、健康・福祉の向上に資する知の発信を行うとともに、次世代の研究者を育成することを目的として、研究室をセンター化することが報告された。

◆昭和医科大学研究センター規程制定について

【制定趣旨】 昭和医科大学研究センターについて必要な事項を定めるため。

【施行日】 令和9年4月1日

◆令和8年度 学校法人昭和医科大学職員数 (5月1日現在)

教育職員	2,496名	臨床研修医	183名
		歯科臨床研修医	81名
教育職員以外	5,129名	臨床研修薬剤師	60名
		職員合計	7,949名

学務関係

◆各学部等における特命教授選任内規制定について

【制定趣旨】 現在の『教授 (員外)』の名称を『特命教授』に変更するため。

【施行年月日】 令和8年8月1日

※本内規の制定日をもって「教授 (員外) 選任内規」は廃止する。

◆各研究科における特命教授選任内規制定について

【制定趣旨】 現在の『教授 (員外)』の名称を『特命教授』に変更するため。

【施行年月日】 令和8年8月1日

※本内規の制定日をもって「研究科教授 (員外) 選任内規」は廃止する。

◆臨床教授選任内規制定について

【制定趣旨】 特に高度な臨床教育・診療の推進を図る目的で『臨床教授』を新設するため。

【施行年月日】 令和8年8月1日

◆学部間協定締結について

学生の相互交流を中心とした国際交流活動を推進するため、下記のとおり学部間協定を締結した。

○昭和医科大学医学部

- ・ルール大学ポーfum医学部 (ドイツ)
- ・韓国カトリック大学医学部 (韓国)

◆薬学部大学入学共通テスト併用入試導入に伴う入学検定料の設定について

○単願の場合: 入学検定料 22,000円

○併願の場合:

併願パターンA入学検定料 37,000円

- ①薬学部大学入学共通テスト併用入試
- ②薬学部大学入学共通テスト利用入試

併願パターンB入学検定料 69,000円

- ①薬学部大学入学共通テスト併用入試
- ②薬学部大学入学共通テスト利用入試
- ③薬学部一般選抜入試I期

◆保健医療学部大学入学共通テスト利用入試における併願時入学検定料改定について

【変更前】

- (1) 歯学部と併願の場合 15,500円 (△1,500円)
- (2) 薬学部と併願の場合 16,000円 (△1,000円)
- (3) 歯学部・薬学部どちらも併願の場合 15,000円 (△2,000円)
- (4) 保健医療学部内の2学科・専攻併願の場合
 - ① 15,500円 (△1,500円)
 - ② 15,500円 (△1,500円)
- (5) 保健医療学部内の3学科・専攻併願の場合
 - ① 15,334円 (△1,666円)
 - ② 15,333円 (△1,667円)
 - ③ 15,333円 (△1,667円)

【参考】 単願時入学検定料17,000円

【変更後】 併願時入学検定料一律15,500円とする。

◆保健医療学部リハビリテーション学科および医療技術学科間の一般選抜入試I期II期における併願時入学検定料について

○併願時入学検定料: 35,000円

※同一検定料にて最大7専攻まで出願することができます。

◆令和8年度 昭和医科大学附属看護専門学校奨学生採用について

○奨学金貸与額: 年間総額 69,720,000円

(内訳: 月額60,000円×90名・月額30,000円×12名・月額50,000円×1名)

○学年別出願者数及び貸与月額種別

学年	貸与月額			人数合計
	60,000円	30,000円	50,000円	
1学年	89名	12名	—	101名
2学年	1名	—	—	1名
3学年	—	—	1名	1名
合計	90名	12名	1名	103名

※令和6年度までの入学者は月額50,000円
令和7年度からの入学者は月額30,000円、月額60,000円から選択可

昭友商事は
皆様をあらゆる面でサポートし、
貢献いたします。

昭和医科大学オリジナル商品の販売

NLローソン・タリーズコーヒー運営

各種旅行・イベント手配業務

アウトソーシングサービス ほか

昭友商事株式会社 〒142-0064
品川区旗の台1-8-16



総務課
大学広報係



「SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS」2027年2月号 (新春号)

表紙写真の募集のお知らせ

新春号の表紙を飾る写真を募集します。
皆さまからのご応募をお待ちしております。

【条件】 ◇デジタルカメラまたはスマートフォン搭載カメラで撮影されたデジタル画像 (カラー・縮小していないもの)
◇ファイル形式: JPGまたはPNG
◇画素数: 短辺2,000px以上、長辺3,000px以上のもの
◇風景写真 (人物・絵画はNG)
◇自作未発表のもの

【備考】 ◇掲載時に誌面に合わせて写真をトリミング処理します
◇撮影後の写真について、合成等の過度な加工は選外になる場合がありますのでご注意ください

【応募方法・お問い合わせ】 応募写真はメールへのデータ添付、もしくはファイル転送サービスをご利用ください。

◇氏名 (ふりがな)、大学との関係 (学生・職員・卒業生など)、撮影場所を明記。
※氏名、撮影場所を掲載しますのでご了承ください

◇送付先
学校法人昭和医科大学
総務部 総務課 大学広報係
メール: press@ofc.showa-u.ac.jp



i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

リカレントカレッジ事務局

令和8年度 昭和医科大学リカレントカレッジ 秋期プログラム受講生募集中

リカレントカレッジでは、令和8年度秋期プログラム受講生を募集しています。定番の講座から新規開講講座まで多彩なプログラムを取り揃えております。今回は11月以降に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。 ※定員に達し次第、受付を終了いたします。

【11月開講】申込締切：10月20日(火)

プログラム名	講師(敬称略)
スマホで秋を撮る ～感性を豊かにする山歩(さんぽ)～	原口 省吾 他

【12月開講】申込締切：11月20日(金)

プログラム名	講師(敬称略)
マインドフルネスストレス低減法(MBSR) 8週間コース	奥茂 敬恭
西洋医学・東洋医学 ～様々な医療から読み解く「健やかライフ」～	鈴木 慎太郎 他

【1月開講】申込締切：12月20日(日)

プログラム名	講師(敬称略)
細胞レベルで納得！健やかな体をつくるサイエンス ～栄養・運動・サプリメントの基本～	赤川 圭子 他
この事件を裁くのはあなたです(ハイブリッド講座)	城 祐一郎
「がん」と言われても動揺しない社会とは	村井 孝子 他

【2月開講】申込締切：1月20日(水)

プログラム名	講師(敬称略)
最期まで自分らしく生きる(ハイブリッド講座) ～緩和ケアいのちの現場から～	佐々木 晶子 他
触れる・香る・深呼吸 ～自然治癒力を高める植物療法・ ハンド&ボディ・マインドフルネスのセルフケア～	佐々木 晶子 他

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。ご希望の方は、問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ 昭和医科大学リカレントカレッジ事務局

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp



上條記念ミュージアム

企画展「コロナ禍のチーム連携 ～昭和医大の奮闘～」を開催します！

上條記念ミュージアムでは、第8回企画展「コロナ禍のチーム連携～昭和医大の奮闘～」を開催します。本展では、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の状況下において、本学内に設置されたPCRセンターの活動とその実績や大学病院における対応、学生生活への影響について取り上げ、当時の大学全体の動きを振り返ります。本学に寄せられた数多くの支援物資や応援メッセージにも触れ、社会とのつながりの中で支えられた活動の一端を紹介します。

【開館】火曜日・金曜日13:00～15:00(予約制)

【開催期間】2026年11月10日(火)～2027年8月31日(火)
皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

お問い合わせ 昭和医科大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



昭和医科大学 学士会

第73回昭和医科大学学士会総会

【日時】2026年11月28日(土) 13:00～17:00

【会場】昭和医科大学 4号館およびライブ配信

1. 一般演題、学位論文内容発表
2. 年次報告
3. 昭和医科大学学士会学術奨励賞授与
4. 教育講演(ライブ配信も行います)

演題	演者
1) デジタル医学が拓く 脳神経外科の未来 ～AIと最先端デバイスの臨床実装～	昭和医科大学 脳機能解析・デジタル医学研究所 教授 佐藤 洋輔
2) 薬物投与の最適化を目指した ドラッグデリバリーシステムの 進歩と将来の展望	昭和医科大学大学院薬学研究科 製剤設計学分野 教授 勝見 英正
3) 変革期の全寮制教育 ～持続可能な運営と教育的価値の 再確認～	昭和医科大学富士吉田教育部 教授 山本 雅人



富士吉田キャンパス入寮前に新入生がPCR検査を受ける様子

ライブ配信のお申込み等詳細は、昭和医科大学学士会ホームページにてご案内しています。



第72回総会の様子

お問い合わせ 昭和医科大学 学士会

電話：03-3784-8074

メール：gakushikai@ofc.showa-u.ac.jp



認定看護師教育センター

2027年度 昭和医科大学 認定看護師教育センター入学試験

認定看護師教育課程の受講生を募集します。

下記内容について入学試験を実施します。

【募集期間】2026年10月26日(月)～2026年11月19日(休)

【試験日程】2026年12月5日(土)

【募集分野・定員】

認定看護師教育課程 B課程	定員
手術看護分野	16名
腎不全看護分野	20名
認知症看護分野	16名
感染管理分野	10名
クリティカルケア分野	20名

認定看護師教育課程 編入学	定員	認定看護師教育課程 特定行為研修	定員
手術看護分野	若干名	手術看護分野	若干名
腎不全看護分野	若干名	腎不全看護分野	若干名
認知症看護分野	若干名	認知症看護分野	若干名
感染管理分野	若干名	感染管理分野	若干名
クリティカルケア分野	若干名	クリティカルケア分野	若干名

【受験資格】

〈共通要件〉

(1)日本国の看護師免許を有する者。

(2)看護師として5年以上の実務研修を有する者。(2026年12月末時点見込)

(3)各看護分野での通算3年以上の看護実績を有する者。

(4)特定行為研修区分別実習について、所属施設等で実習が可能である者。

※(4)について2027年度入学者より追加いたしました。詳細については、募集要項をご確認ください。

〈編入学〉

(1)各看護分野での特定行為研修区分別科目を修了していること。

〈特定行為研修〉

(1)各看護分野での認定看護師の資格を有する者。

(2)特定行為研修区分別実習について、所属施設等で実習が可能である者。

※(2)について2027年度入学者より追加いたしました。詳細については、募集要項をご確認ください。

募集要項および詳細については、QRコードよりご確認ください。

お問い合わせ 昭和医科大学認定看護師教育センター

〒142-0064 東京都品川区旗の台1-8-12

電話：03-3784-8794

メール：showanintei@nr.showa-u.ac.jp



お詫びと訂正

2026年8月号(第632号)の掲載内容に一部誤りがありました。ここにお詫びして訂正いたします。

P22・23「令和7年度クラブ活動優秀成績(上位成績抜粋)」
【男子100m自由形第1位、男子50m自由形第2位】石田 優

P24「卒業生の進路状況」

【主な就職先・進路先(薬学部)】国立成育医療研究センター

総務部

昭和医科大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年記念事業募金】

父母／平井 克明 様

同窓／小林 和夫様（医学部・45回生）、佐々木 康綱 様（医学部・48回生）、医療法人社団輝芳会 日吉東急鈴木眼科 新綱島鈴木眼科 武蔵境 鈴木眼科 理事長 鈴木 聡志 様（医学部・64回生）、医療法人社団ふじたか会 理事長 林 量司 様（医学部・69回生）、高場 雅之 様（歯学部・17回生）、高場 有美 様（歯学部・17回生）

職員（50音順）／釋尾 知春 様、菅沼 岳史 様、松木 恵里 様、宮崎 友晃 様、山本 真寛 様

一般／湯山 陽子 様、社会福祉法人あそか会 あそか病院 様、山梨赤十字病院 様

【教育研究協力資金への寄付】

同窓／亀井 陽 様（医学部・57回生）

【昭和医科大学病院への寄付】

同窓／鈴木メディカルクリニック 鈴木 泰志 様（医学部・58回生）

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／勝野 雅弘 様（医学部・67回生）

一般／日本中央競馬会 様

【校舎建設・運営維持への寄付】

職員／久光 正 様、久光 直子 様

創立100周年記念事業募金ご支援のお願い

本学は令和10年に創立100周年という大きな節目を迎えます。この節目を未来への新たな出発点と捉え、教育・研究・診療体制の一層の充実を目指した記念事業を展開しています。

厳しい社会情勢の中ではございますが、本学の未来づくりへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



創立100周年記念事業募金による顕彰

銘板へご芳名を刻み顕彰といたします。

なお、第I期は2026年12月31日までにお寄せいただいたご寄付分を鷺沼キャンパスに設置予定です。

第II期以降につきましては、決定次第ご連絡いたします。

昭和医科大学 100周年
記念事業募金サイトはこちら

※収納期間：2026年 6月1日～7月31日

※本学広報媒体への掲載にご同意いただいた方のみ掲載しております

今号の表紙写真

表紙を飾るのは、富士吉田キャンパスのハロウィンを彩るカボチャです。自然教育里山園で大切に育てられたカボチャが、学生たちの手によって、個性豊かなジャック・オー・ランタンへと生まれ変わりました。一つひとつ表情の異なる作品には、学生たちの創意工夫と自由な発想が詰まっています。自然に親しみながら学び、仲間との交流を深めることができる、富士吉田キャンパスならではの取り組みです。



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

昭和医科大学新聞 通巻第633号

vol. 24

October 2026 令和8年10月1日発行

[年6回発行]



学校法人 昭和医科大学

(03) 3784-8000
〒142-8555

東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係

(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

配送停止
住所変更
のご連絡は
こちらにお願い
いたします。

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入支援課 (03) 3784-8026

! 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和医科大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和医科大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。